

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 公正で透明性の高い学位論文審査体制を構築する。	→外部審査委員の委嘱状況、学位論文公開発表会、審査会の開催状況。	A
2. 学位論文執筆に向けたインセンティブを高めるための学生自身による学修・研究成果にかかる自己評価を試行する。	→履修・研究計画に対応した学生自身の研究活動に関する自己評価（特に博士論文計画書・予備論文提出などの手順を踏まえた研究進捗状況に関する評価）の実施状況。自己評価を踏まえた教員による評価・指導の実施状況。	B
3. 前期課程・後期課程修了後の進路状況を把握し、それに対応した教育内容・方法等の検討を進める。	→進路状況（就職・進学・資格取得等）の状況。それを踏まえた大学院にふさわしい指導のあり方の検討の進捗状況。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

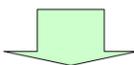
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	前期課程では入学定員64名に対して定員充足率9割、修士学位取得者は2009年度51名。これは入学者数の9割が修士学位取得したことを示しており、高比率で目標達成されている。後期課程では入学定員20名に対して定員充足率は9割であり、2009年度には12名に課程博士学位を授与した。対入学定数比率は6割。博士学位取得者の多くは過年度入学者であり、学位取得状況のみで学修達成状況が測定できるわけではない。他方、年次毎の研究成果報告書を開発中であり、それをふまえた学生の自己評価実施に向けた検討を行っている。
☆ 小項目6.4.2	博士学位授与手続適正化のために2010年度より制度改革を行い、外部審査委員のよりいっそうの積極的登用、公開発表会の原則化、公開審査も可とするなどの一連の措置を導入した。
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	課程博士学位授与数は、2005年度6件、06年度4件、07年度7件、08年度9件、09年度12件と直実に増加しており、博士後期課程の学修・研究指導の前進が確認される。
★小項目6.4.2	制度改革後の博士学位審査において外部審査委員の積極的登用、公開審査会の実施が進んでおり、今年度中に制度改革が適当な成果を生むことが予想される。
その他	



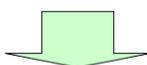
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.4.1	学生自身の自己評価の一環として、引き続き年次研究報告書の開発・検討を進める必要がある。
★小項目6.4.2	今年度末に新制度による学位審査実施状況を把握して、よりいっそうの進展をはかるとともに、改善点を明確にする。
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.4.1	前期課程・後期課程それぞれについて中退者も含む就職状況などの基礎データを整備し、大学院における修学と修了(退学)後の職業との関連などを把握する必要がある。
★小項目6.4.2	年度末の実施状況把握によって明らかにする。
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.4.1	基礎データの収集に努める。
★小項目6.4.2	年度末の実施状況把握によって明らかにする。
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○着実な努力がなされています。目標3ほどの大学でも進展の少ないところですが、就職先での評価などから長所や改善点を把握するシステムが構築されれば、6.1に立ち戻って教育目標を再検討するPDCAサイクルが活性化することになります。今後の進展が期待されます。

## 【学内委員】

○さまざまな目的をもつ多様な学生が在籍しているので、画一的な指導には限界があります。それぞれの目的に照応する指導が不可欠です。また、博士学位授与手続適正化のために外部審査委員の積極的登用が行われ、公開発表会・公開審査が実施されていることは評価できます。

○外部審査委員のよりいっそうの積極的登用、公開発表会の原則化、公開審査も可とするなどの一連の措置を導入したことは評価出来ます。

○上記が整備されるにつれて、前期課程・後期課程中途退学者について、研究内容、指導体制について行けない可能性を考えると望まれます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

### <個別的な指標>
